

今月の特集

医療的ケアを必要とする子どもたち



医療的ケア児とは、病気や障害などにより新生児のための集中治療室(NICU)などに入院した後も日常的に医療的ケアを必要とする子どものことです。全国では約2万人、名古屋市では約430人の医療的ケア児がいると推計されています。

医療的ケアが必要なお子さんと家族みんなが安心して過ごせる体制を整えとります。不安なことは悩まず気軽に相談してちょうよ!

名古屋市長 河村たかし

どんな支援が必要?

医療的ケア児とその家族の心配事は、お子さんの状態によってさまざまです。お子さんの状態に合わせて、さまざまな職種が連携して支援を行います。



例えば

気管を切開しているAちゃんの場合

未熟児で生まれて気管を切開。軽度で歩けるものの、たん吸引のケアが必要

退院をするとき

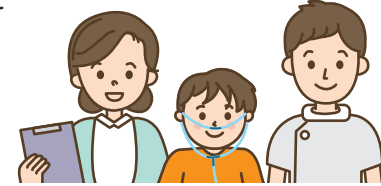
自宅での生活についての相談

退院をして在宅生活に移る際、退院カンファレンスを開きます。病院の医師や看護師、地域でお子さんを支える訪問診療医、相談支援専門員^{*}、保健師などが集まって、在宅での生活がなるべく不安なく始められるように必要なサービスを一緒に考えていきます。

^{*}相談支援専門員…障害サービスの利用計画を立て、関係機関との調整を行います。国の定めるカリキュラムを修了し、医療的ケア児への支援について専門的な知識を身につけた、「医療的ケア児等コーディネーター」の資格を持つ人もいます。

支援の一例

- 訪問看護ステーションによる週に2回の訪問
- 訪問診療医による週に1回の訪問
- 相談支援専門員による月に1回の訪問など



日常において

家での生活をサポート

保健センターの保健師や相談支援専門員がご家庭を訪問します。発育状況や家族の体調を確認したり、お話を聞いたりしながら、地域での育児に必要な情報などを紹介します。

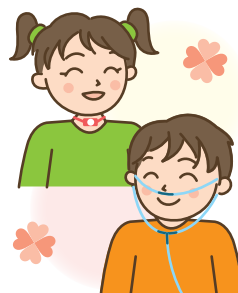
支援の一例

- 子育ての悩みについては、近くで行われている子育て教室を案内
- 「夜間のたん吸引が頻繁で保護者がまとまった睡眠がとれない」などの悩みには、短期入所(ショートステイ)の利用を案内

成長の支援

お友達と過ごせる場所を紹介

相談支援専門員や保健師に相談してみましょう。地域療育センターの療育グループや児童発達支援事業所など、お子さんや家庭の状況に応じて通うことができる場を紹介します。



支援の一例

- 最寄りの療育センターの療育グループを紹介
センターでは、リズム体操や絵カードを使った遊びを通して、お友達と一緒に身体や言葉のトレーニングを行います。

地域で医療的ケアが必要なお子さんを育てるご家族の方へ



大同病院小児科
看護師長
加藤さん

チームをつくり、退院後の生活を成長に合わせてサポートします。

当院では、医療的ケアが必要になったお子さまとご家族が、安心しておうちで過ごせるようにチームづくりをしています。チームメンバーは、家族・近隣に住む人・保育園や学校の先生・相談支援専門員・児童相談所・おうちに訪問する医師・看護師・保健師など子どもに関係する人たちです。退院後もメンバーが情報交換し、成長に合わせた話し合いを繰り返します。名古屋市は、すべての子どもたちが、安心して生活し、教育を受け、成長できる仕組みのある都市です。医療的ケアのことが知りたい、相談したいという方は、気軽にご連絡ください。



南部地域療育
センターそよ風
相談支援専門員
近藤さん

医療的ケア児等コーディネーターが、皆さまの願いを一緒に考えます。

名古屋市には医療的ケアが必要なお子さまとご家族が、地域で安心して暮らしていくためのお手伝いをする「医療的ケア児等コーディネーター」がいます。医療的ケア児等コーディネーターはお子さまとご家族が日常生活を送る上で必要な支援を、お子さまの健康状況、発達、年齢などを考慮しながら保護者の皆さまと一緒に考えます。医療・保健・福祉・療育・保育・教育に携わる支援者とのつながりを通して、支援の調整、社会資源の開発も進めていきます。ぜひお子さまや保護者の皆さまの願いや不安なことを聞かせてください。お子さまの育ちが保護者の皆さまの喜びとなるようサポートします!

相談窓口の紹介 支援や相談機関について、名古屋市医療的ケア児支援サイト^{えがお}でも詳しく紹介しています。→

